

# 自分の考えを伝える訓練

いつも最後に残る夏休みの宿題といえば「読書感想文」。その難しさについて考えてみた。そもそも、何のために書くのだろうか。

ただ「やれと言われたからやる」のでは、苦行になってしまう。読書感想文の「利点」や「魅力」に気づけば、楽しさも見えてくるかもしれない。

(篠原知存)

「読書感想文にどういう意義があるか、学校からも伝えられず、しかも具体的な方法も分からず、つい後回しになって嫌々になって…。という声は親御さんからよく聞きます」

そう話すのは、多くの子供たちに作文や読書感想文を指導している学習塾「花

## 読書感想文って楽しい!?

### 読書感想文の構成例

- パーツ1 あらすじ
- パーツ2 ひきつけられたところ
- パーツ3

### もし主人公だったら (作者に伝えたいことetc.)

読んだ本を要約して(パーツ1)、一番覚えている場面とその理由を書いて(パーツ2)、自分自身の経験や価値観と結びつける(パーツ3)



「会話を録音するのもいい方法」と話す竹谷和さん

まる学習会」の教材開発部長、竹谷和さん。言っても眠くなるだけです。高学年には、読書感想文は本を通じて自分の考えを伝える訓練なんだよ、面

倒でも楽しいことなんだよって、はっきりに言います」

竹谷さんの著書「子ども

の「書く力」は家庭で伸ばせる(高濱正伸共著、実務教育出版)は「そもそも「書く」とはどういうことか」という本質的な問いかけからスタートする。

### 見返せる道具

多くの人が「書く」場面という仕事ではメール、

企画書、日報、備忘録…。私生活では日記や手紙、最近では会員制交流サイト(SNS)など。それぞれに情報発信や自省といった目的

がある。これらを会話ではなく文字にすることの最大の利点は「見返せること」だと記す。

「残っているから読み返すことができ、それがその人自身に気づきをもたらす、意識や行動を変えていく」そして他者と共有できる

経験を自分の言葉にすることで、考えを深めることができるようになり、自立につながる。

「書く」という「使える道具」を持つことで、子どもたちの人生がより生きやすく、すばらしいものになる」

課題として日記や読書感想文に向き合うときも、この本質は忘れないほうがよさそうだ。

もちろん、子供の文章はつたない。親はつい、もっとうまく書けないのか、とも思ってしまうが、コンク

ールが目的ではない。それぞれの子供の成長段階に応じた「言葉」を見つけて、ことを目指せばいい。

### 見返す時間に意味

では具体的にどうするか。低学年の場合は、いきなり原稿用紙に書くより対話から始めるのがいい、と竹谷さんはアドバイス。

「質問をしながら話し言葉で表現させて、できれば録音しておく。いま話したことを書いてもらって。忘れていたら再生して、30秒とか短いサイクルで回していく。話したことを原稿用紙に落としていく」

小学校高学年以上は、いきなり書きたいという子供も多いが、感想文は量が多いので、大きな紙で全体像を示すなどして「どれくらい進んだか、どれくらいで終わるか」を示してあげるのが効果的という。

「実感を言葉にするまでの待ち時間というか、探すための時間にこそ、読書感想文の意味があります。簡単に言葉にしちゃダメだよって高学年の子にはよく言います。親御さんの時間と心の余裕がある日に、ぜひ一緒に取り組んでもらいたいですね」

大人になると読書感想文を書く機会は少ないが、自分の好きな本について、子供と一緒に挑戦してみると、新たな発見もあるかもしれない。

「何より、その子から引き出てるものがあると信じられていくかどうか、楽しみにできているかどうかというのが、一番大切だと思います」